

Newsletter

発行： 公益社団法人日本水環境学会 九州沖縄支部

URL : <http://www.jswe-kyusyuu.com/>

事務局： 〒 889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1

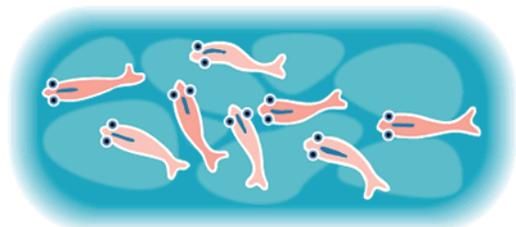
宮崎大学社会環境システム工学科 鈴木祥広

TEL: 0985(58)7339 FAX: 0985(58)7344

E-mail: ysuzuki@cc.miyazaki-u.ac.jp

目次

1	巻頭言	宮崎大学	鈴木 祥広
2	2022年度事業計画	宮崎大学	鈴木 祥広
3	2021年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会報告		
	全体報告	宮崎大学	糠澤 桂
	一般講演A セッション1	九州工業大学	前田 憲成
	セッション2	国立高専機構有明高専	内田 雅也
	セッション3	福岡大学	伊豫岡宏樹
	セッション4	長崎大学	藤岡 貴浩
	セッション5	国立高専機構鹿児島高専	山田 真義
4	2021年度支部研究発表会学生優秀発表賞受賞者一覧および受賞者のことば	宮崎大学	糠澤 桂
5	2021年度日本水環境学会九州沖縄支部総会報告	宮崎大学	糠澤 桂
6	2021年度支部表彰者（水環境貢献賞）の受賞者のことば	NPO 海の再生ネットワークよろん	田畑 克夫
7	2021年度支部表彰者（特別功労賞）の受賞者のことば	鹿児島大学	高梨 啓和
8	2021年度水環境健全指標調査報告	西日本工業大学	高見 徹
9	2021年度支部収支報告並びに2022年度支部収支（案）		
10	2022年度日本水環境学会九州沖縄支部役員		



1. 巻頭言

(公社) 日本水環境学会九州沖縄支部長
宮崎大学 鈴木 祥広

2022年度、九州沖縄支部長2年目となる宮崎大学の鈴木祥広です。2021年度も新型コロナの感染が世界的に拡大し、国内外、そして九州の諸学協会等の活動は、著しく制限せざるを得ない状況が2年以上も続いています。2020年度に引き続き2021年度も支部の研究発表会は2022年3月にオンラインで開催されました。支部役員のご協力に感謝します。オンライン開催は、非常に便利で運営サイドの負担は著しく軽減されますが、発表者や参加者との意見交換やその他の交流が極めて制限されることが大きな欠点です。私自身も九州沖縄支部会員の仲間とは2年間以上も対面で会うことができていません。現在も新型コロナが感染は継続しており、2022年5月現在において、九州地方でも新型コロナが感染の第6～7波が押し寄せ、九州全県で感染者数が高いレベルで継続している状況にあります。しかし、もうそろそろ新型コロナも先が見えてきたように思います。2023年の年頭には新型コロナが終息し、2022年度の研究発表会・総会が宮崎大学において現地開催できるよう、期待しつつ準備していきます。

さて、2022年度も新型コロナ一色で迎えることになりましたが、2021年度末の総会では、とても良いお知らせがありました。サンゴ礁生態系の保全・再生を通じた与論島の豊かな自然環境と観光資源の保全・改善や社会教育の推進につながる重要な取り組み活動が高く評価され、「特定非営利活動法人 海の再生ネットワークよろん」殿が本支部の「水環境貢献賞」として表彰されました。また、長年に渡って本支部活動にご尽力頂いた鹿児島大学・高梨啓和先生には、「特別功労賞」が授与されました。心よりお慶び申し上げます。本年度も各賞の推薦を受け付けておりますので、自薦・他薦を問わずに申し込んでください。本支部は、水環境に係る研究や諸活動に対して積極的に表彰し、その成果を広く発信していきます。

ここで、支部会員の皆様に重要なお知らせがあります。第58回日本水環境学会年会(2024年3月)は、九州大学伊都キャンパスで開催されることが本部理事会にて正

式に決定されました。実行委員長には九州大学大学院工学研究院の久場隆広先生、幹事長には九州大学大学院工学研究院の藤林恵先生にご就任いただき、支部役員を実行委員とする体制で進めていきます。まだ、少し先の予定ではありますが、ご予約に入れて頂きたいと存じます。九州沖縄支部の財政は数年来、極めて健全であり、様々なイベントを設計・実施することが可能です。支部内においては、会員数の増加と水環境保全に関する教育研究のレベル向上を狙い、支部外においては、九州沖縄支部の研究成果の発信および水環境保全に関する市民活動のサポートを推進していきます。新しい試みや企画、アイデアがありましたら支部役員へご提案ください。実現に向けて積極的に対応します。

最後に、九州沖縄支部学会員皆様のご今後のますますのご活躍とご清祥を祈念いたし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。



2. 2022 年度日本水環境学会九州沖縄支部事業計画

日本水環境学会九州沖縄支部の 2022 年度事業計画は、以下のとおりです。

1. 九州沖縄支部研究発表会・総会等の開催
 - ・九州沖縄支部研究発表会・総会を宮崎大学において開催予定とする（2023 年 2 月または 3 月）。
 - ・役員会を開催（メール会議・必要に応じて開催）する。
2. シリーズ講習会または見学会の開催
 - ・シリーズ講習会または見学会を開催する。
3. 水環境健全性評価調査に係る研究助成（募集）
 - ・水環境健全性評価調査に係る支援を行う。
4. 若手研究・実務者育成基金事業（募集）
 - ・若手研究・実務者育成基金による支援事業（上半期・下半期）を行う。
5. 支部表彰（学術賞・水環境貢献賞・学術奨励賞）
 - ・学術賞・水環境貢献賞・学術奨励賞の支部表彰を選定し、表彰する。
6. 支部企画事業
 - ・支部会員が連携して実施可能な支部事業の企画を検討する。
 - ・例えば、九州沖縄の水環境の関連する研究や調査
 - ・第 58 回日本水環境学会年会での支部企画
7. 情報発信
 - ・ニュースレターを 6 月に発行する。
 - ・支部ホームページを随時更新する。
8. 第 58 回日本水環境学会年会（2024 年 3 月）の実行委員会の立ち上げ
 - ・九州大学久場隆広実行委員長（九州大学・教授）のもとで実行委員会の立ち上げ、準備を開始する。

事業計画で予定された実施時期等が変更となる場合もございます。その際は、支部 HP 等で皆様方にご案内します。その他、ご質問ご意見等あれば、直接事務局にお問い合わせいただいても構いません。



3. 2021 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会報告

日時：2022 年 3 月 9 日 9:55 ～ 16:10、Web 開催 (Zoom)

宮崎大学 糠澤 桂

2022 年 3 月 9 日 (水) に Web 開催 (オンライン Zoom) にて、2021 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会が開催されました。5 つのセッションで、合

計 19 件の発表がされました。参加者は 33 名であり、活発に質疑応答がされました。

一般講演 A

セッション 1

本セッションでは、都市下水における薬剤耐性菌の検出、砂ろ過水中のオンライン細菌数計測と評価、下水処理水のカビ臭物質の実態把握、下水処理放流水近くの底質の栄養塩類の溶出特性に関する計 4 件の研究発表が行われた。

1 件目は、宮崎大学の津田康平氏による都市下水における基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ (ESBL) 産生大腸菌・大腸菌群の検出比較についての発表であった。下水処理場流入水中の大腸菌および大腸菌群のうち、2.1% および 0.4% が ESBL 型であったこと、ESBL 産生大腸菌群の主要な菌種は *Cedecea* 属であったことなど、都市下水中の薬剤耐性菌群の存在に関する重要な知見を報告している。

2 件目は、長崎大学の BOIVIN Sandrine 氏の発表で、浄水場における砂ろ過水中の細菌数をオンラインで計測し、評価する取り組みであった。リボフラビン系化合物を標的とした細菌群の蛍光検出を妨害するフミン酸化合物を除去するアイデアとして、透析膜を利用する手法を検討しており、オンラインで細菌数を効果的に計測するための重要な成果を報告している。

3 件目は、下水処理水のおいの実態把握に関する発

座長：九州工業大学 前田 憲成

表を一般財団法人九州環境管理協会の後藤祐哉氏が行なった。調査した下水処理場の処理水のおいとして検出された全 15 物質のうち、2,4,6-トリクロロアニソール、2-メチルイソボルネオール、ジェオスミンがかび臭物質であることを明らかにしている。特に、2,4,6-トリクロロアニソールがにおいの要因となっていることなど、下水処理場の臭気に関する重要な知見を報告している。

4 件目は、福岡県保健環境研究所の柏原学氏が、硝化促進期と硝化抑制期の下水処理放流水が流れ込む水域にある底質における栄養塩類の溶出傾向について発表を行なった。底質における窒素系イオンとリン系イオンなどの溶出量を調査し、1 日当たりの底質からの溶出による増加量は多くても 2% 程度と算出するなど、効率的なノリ栽培のための栄養塩類の動態に関する重要な知見を報告している。

今年度も、昨年度に続きオンライン Zoom を用いた遠隔発表での運用であった。ネットワーク回線不全のトラブルも行なったが、4 件の発表に対して活発な質疑応答がなされた。本セッションの発表者の皆様と議論に参加していただいた先生方にこの書面の場を借りて、お礼申し上げます。

セッション 2

本セッションでは、次の 4 件の研究成果の発表がなされた。

最初の報告では、「下水一次処理水の直接ナノろ過処理における膜ファウリングの抑制」について長崎大学大学院工学研究科 DOAN Vu Mai Phuong 氏が、排水の NF 処理を行うことによる水処理の簡略化に伴う膜ファ

座長：有明高専 内田 雅也

ウリングを最小化するための新しいフラットシート型浸漬式 NF 膜モジュールの性能を評価し、その安定性と高品質の再生水が得られることを報告された。

2 件目の報告では、「ポリヒドロキシ酪酸-ナノセルロース複合材料の嫌気消化過程への影響調査」について九州工業大学大学院の田代滉人氏が、生分解性を持つポ

リヒドロキシ酪酸 (PHB) とナノセルロース材料 (CN) などの新規材料に対し余剰汚泥を細菌群として分解機構を調査し、嫌気メタン発酵系において材料の組成によってメタン生成量が増加することを報告された。

3 件目の報告では、「硝酸性窒素の高い地下水の水質とその長期的変化に関する考察」について熊本大学の竹ノ内佑多氏が、熊本市内の硝酸性窒素の汚染状況と要因などを調査し、採水地点によっては周期的変動が明確でなく、当該地下水全体の水質が長期に亘って徐々に変化している可能性があることを報告された。

本セッション最後の報告では、「腐植物質および鉄の微

小サイズ凝集体の基礎的形成条件に関する研究」について熊本大学の伊藤紘晃先生が、環境水中の凝集における鉄について着目され、腐植物質及び Fe(III) が単独で存在あるいは共存する場合の凝集の特徴を把握することを目的に研究され、Fe(III) 濃度が高くなるにつれてより凝集体がとる粒子径の範囲が広くなり、Fe(III) と腐植物質が共存する場合は腐植物質の濃度が小さい場合でも鉄の凝集が大きく抑制されると報告された。

以上、本セッションにおけるいずれの発表においても活発な議論が交わされていた。各研究の今後の更なる成果に期待したい。

セッション 3

本セッションでは、4 件の研究発表が行われた。

1 件目の発表は、有明高専による海産甲殻類アミを用いた甲殻類の脱皮ホルモンによる脱皮と成長の関連性に関する研究であった。脱皮ホルモンへの高濃度の曝露条件で、十分な成長が伴っていない個体が脱皮途中で死亡する様子が観察され、脱皮促進による影響と考えられた。海域における化学物質の影響評価の手法として期待される。

2 件目の発表は、佐賀大学による下水処理放流受水域内の底泥が水域に及ぼす影響に関する研究であった。干潟底泥からのアンモニア体窒素の溶出に関して、現地サンプリングとカラム試験による検討を行い、アンモニア体窒素の溶出量と水温との関係を見出すとともに、巻き上げによる硝化促進が溶出速度に与える影響が示された。

3 件目の発表は、福岡県保環研による有明海の生物利用可能栄養塩類について、添加する栄養塩類を制御する MBOD 法を用いた結果が報告された。栄養塩無添加の MBOD と窒素を制限した MBOD-N が比較的近い値を示したこと、次いでリンを制限した MBOD-P が近い値となったことから、有明海では窒素が従属栄養細菌の活動を制限していることや、海域への十分な窒素成分供給が行われた場合には、リンによって従属栄養細菌の活動が制限を受ける可能性が示唆された。

4 件目の発表は琉球大学、東京農業大学、現地 NPO などのチームによる与論島における表流水中の懸濁態物質・

座長：福岡大学 伊豫岡 宏樹

栄養塩の流出特性とサンゴ生息海域への影響についての報告であった。地下水および表流水中の調査・分析の結果、表流水中の SS について総降水量との正の相関、流域面積と負の相関を示すことが示された。また、先行降水量の増加に伴って地下水による窒素・リンの流出負荷量が減少し、表流水によるものが増えることが確認された。

本セッションでは、海域環境への影響について様々な角度からの検討の結果が示され、いずれも興味深い結果が示されていた。今後の海域環境への理解と持続的な管理への発展が期待される内容であった。



写真 中村氏の発表スクリーンショット

セッション4

座長：長崎大学 藤岡 貴浩

本セッションでは、4件の口頭発表が行われた。

1件目は、有明工業高等専門学校 堤 久晃氏による「非ステロイド性抗炎症薬がメダカ胚発生に与える影響」の発表であった。発表者達は、非ステロイド性抗炎症薬が水生生物の発生に及ぼす影響に着目しており、本発表では水環境で検出されているジクロフェナクおよびインドメタシンを高電界パルス印加によりメダカ胚に導入し、その影響を評価した成果が報告された。本研究を通して、発表者達は、ジクロフェナクおよびインドメタシン両者に共通して奇形が起り、ジクロフェナクでは血球数の減少という特異的な影響が出ることを明らかにした。

2件目は、鹿児島工業高等専門学校の志戸 遥風氏による「新規下水汚泥肥料の特性と茶栽培への適用」の発表であった。発表者達は、低重金属で保水性を改善した新規下水汚泥肥料の製造に着目しており、本発表では肥料化装置の処理容量を1000倍スケールアップし、新規下水汚泥肥料の成分特性の再現を試みたことが報告された。本研究を通して、発表者達は、スケールアップを行って製造した新規下水汚泥肥料は重金属含有量が低く、植物の生育に影響を及ぼすような有害物質を含んでないことを明らかにすると共に、茶栽培に使われる菜種油粕全量を新規下水汚泥肥料に置換することが可能であると提案した。

セッション5

本セッションでは、3件の口頭発表が行われた。

最初の報告は、有明工業高等専門学校専攻科の西山裕貴氏による「有機フッ素化合物 PFOS, PFOA のメダカ胚発生毒性」の発表であった。工業排水や消化剤の使用などで環境中に放出される有機フッ素化合物の中で使用量の多いパーフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) とパーフルオロオクタン酸 (PFOA) を対象に魚類モデル生物であるメダカ胚を用いて発生影響評価を行い、これらの物質暴露により発現が変化する遺伝子について検討した結果が報告された。本発表の結果は、メダカ胚に PFOS, PFOA を導入することで、高濃度で奇形が発生することが確認され、遺伝子発現解析結果では物質暴露による遺伝子発現の変化が確認された。

2件目の報告は、九州工業大学の田中瑛二氏による「電気培養による下水汚泥中の細菌群集構造への影響調査」の発表であった。下水汚泥の減容化手法として超音波処理や

3件目は、福岡大学の中野 健人氏による「地域住民による河道内の小規模グリーンインフラ化の効果について」の発表であった。発表者達は、草刈りを主とした地域による簡単な管理で河道内の小規模グリーンインフラ化を目指しており、本発表では、人感センサーを用いた人の出入り管理やアンケート等の手法を用いて、草丈と利用者の関係を調べたことが報告された。結果、発表者達は、踏圧のある場所では草丈が40～50cm および踏圧のない場所では草丈が100cm を越えると利用者が大幅に減少することを明らかにし、夏季の草刈りにより利用者が促進できることを提案した。

4件目は、福岡大学の伊豫岡 宏樹先生による「航空写真を用いた干潟環境の類型化に関する研究」の発表であった。発表者は、Unmanned Aerial Vehicle (UAV) によって得られる低空航空写真を用いて干潟の物理環境を可視化して面的に評価することを試みた。結果、UAV データを基に作成されたオルソ画像の R、G、B 成分と地形モデルを用いて作成した教師なし画像は、元画像の撮影時の影響等により十分に判別できていない箇所があったものの、補足的に超低空で撮影した教師あり画像を活用することで判別制度の高い結果が期待できると報告された。

座長：鹿児島高専 山田 真義

アルカリ処理、酵素処理よりも効率的な下水汚泥の資源化に向けて電極還元反応による下水汚泥の減容機構を解明するために細菌群集構造を行った結果が報告された。

3件目の報告は、宮崎大学の矢羽田智哉氏による「海水から発生する飛沫に濃縮される最近の菌叢解析」の発表であった。本発表では宮崎県内の海水浴場の海水を対象として海水と飛沫に含まれる大腸菌、大腸菌群、従属栄養細菌の細菌数と細菌叢について菌叢解析を行い比較検討した結果が報告された。本発表の結果は、各細菌の飛沫中の菌数が濃縮され、多様な細菌が含まれることを明らかにし、飛沫に濃縮されやすい菌種が存在することを示唆した。

以上、いずれの発表においても活発な議論が交わされた。今後の更なる成果に期待したい。

4. 2021 年度支部研究発表会学生優秀発表賞一覧および 受賞者のことば

宮崎大学 糠澤 桂

2022年3月9日(水)にWeb開催(オンラインZoom)にて、2021年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会が開催されました。

学生がおこなった優秀な発表に対して、優秀発表賞3件を選定しました。

受賞者の皆さまおめでとうございます。

優秀発表賞

- ・矢羽田智哉(宮崎大学)「海水から発生する飛沫に濃縮される細菌の菌叢解析」
- ・中村駿介(有明工業高等専門学校)「海域における環境リスク評価法の確立に向けた海甲殻類アミの基礎的知見の集積」
- ・西山裕貴(有明工業高等専門学校)「有機フッ素化合物PFOS, PFOAのメダカ胚発生毒性」

矢羽田智哉(宮崎大学)

この度は、優秀発表賞という名誉ある賞を頂けたこと大変嬉しく思っております。また、指導して下さった先生方ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げます。今後も本研究の更なる発展に携わっていきたく思います。

中村駿介(有明工業高等専門学校)

この度は、優秀発表賞という名誉ある賞を頂き大変嬉しく思っています。また、このような素晴らしい賞を頂くことができたのは、ご指導くださった内田雅也先生、富永伸明先生ならびに研究室の皆様のおかげであると思っています。今後も水環境の研究に少しでも貢献できるように励んでいきたいと思っております。

西山裕貴(有明工業高等専門学校)

この度は、優秀発表賞という素晴らしい賞をいただけましたこと大変嬉しく思っております。また、今回このような賞を頂くことができたのは富永伸明先生、内田雅也先生の深いご指導、ご助言のおかげであると強く思っています。ありがとうございました。この経験を活かし、今後も研究活動に励んでいきたいと思っております。

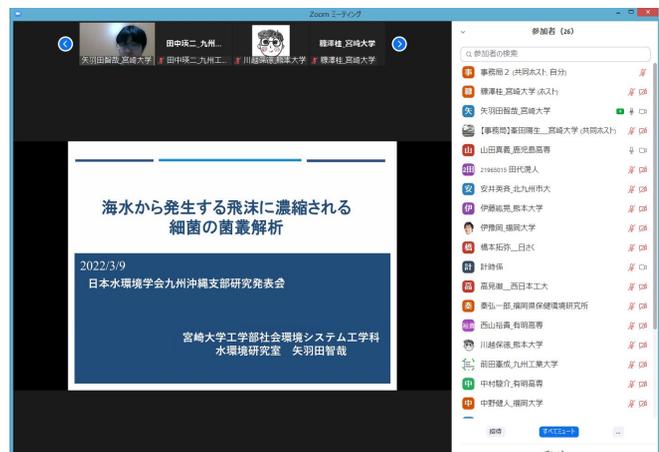


写真 矢羽田氏の発表スクリーンショット

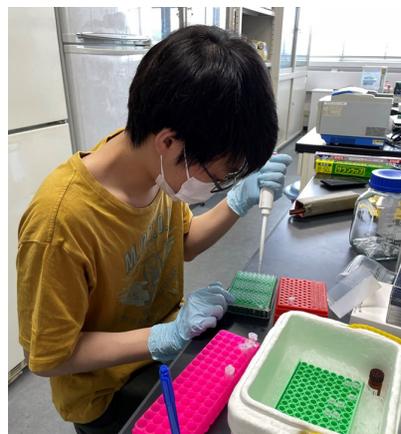


写真 西山氏の研究風景

5. 2021 年度日本水環境学会九州沖縄支部総会報告

宮崎大学 糠澤 桂

2022年3月9日（水）にWeb開催（オンラインZoom）にて、公益社団法人日本水環境学会九州沖縄支部総会が開催されました。総会は、支部長の鈴木先生の挨拶で始まり、同鈴木先生の議長のもとに定足数確認、議事が進められました。2021年度の支部事業報告、支部会計報告、2022年度の支部事業計画案、支部予算案、

支部役員案が承認されました。総会に引き続き、2021年度日本水環境学会九州沖縄支部表彰者のうち、水環境貢献賞を受賞したNPO海の再生ネットワークよろん様より受賞記念講演が行われました。また、特別功労賞を受賞した鹿児島大学の高梨啓和先生より受賞スピーチが行われました。

6. 2021 年度支部表彰者（水環境貢献賞）の受賞者のことば

与論島サンゴ礁保全への取り組み

NPO 海の再生ネットワークよろん 田畑 克夫

この度は、誠に荣誉ある賞をいただき、心から感謝申し上げます。当団体は「ヨロンの海サンゴ礁再生協議会」を前身に2015年に法人化し、鹿児島県最南端の与論島にてサンゴ礁及びサンゴ礁を取り巻く環境保全活動を行ってきました。これまで行ってきた活動に対し表彰していただき、今後の活動の励みになります。会員一同を代表し、厚くお礼申し上げます。

近年の世界的な気候変動に伴い、サンゴ礁を取り巻く環境は著しく変化しています。1998年に高水温ストレスによるサンゴ礁の大規模白化を受け、日本中のサンゴ礁が衰退し、与論島においても多大な被害を受けました。現在も島内一部海域ではサンゴ礁の回復は思わしく

なく、2016年から2020年の環境省モデル事業での調査の結果、現在のサンゴ礁回復を阻害する要因に、陸域からの栄養塩流入や、大雨時の赤土流入など、複合的要因があること分かってきました。

今後も生き物たちにとって厳しい環境変動は続いていく予測にありますが、せめて私たち人間の活動による影響を減らしていくことが急務だと考えております。離島は人間活動の影響が自然環境に出やすいことから、社会の縮図ともいわれています。今後も少しずつではありますが、サンゴにとってよりよい環境づくりを目指し、与論島での行動がモデルケースとなるよう、努力してまいります。



写真 サンゴ礁の調査（リーフチェック）



写真 小学生への出前授業

7. 2021 年度支部表彰者（水環境貢献賞）の受賞者のことば

特別功労賞を受賞して

鹿児島大学 高梨 啓和

この度、特別功労賞という大変名誉ある賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。ご推薦いただいた皆様、ご審議いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。小生は、1995年に九州沖縄支部（当時は九州支部）に所属させていただいてから現在までの約26年間、水環境の教育・研究に取り組んで参りました。その取り組みが結実したのは、一重にご指導・ご鞭撻いただきました皆様の賜物であり、感謝の念に堪えません。とくに、駆け出しの時に温かく見守りつつご助言をいただいた先生、研究や教育の話に花を咲かせていただいた先生、支部研究発表会などで熱量豊かにご討議させていただいた先生に厚く御礼申し上げます。それらの経験がなければ、今日に至ることは叶いませんでした。

この度の授賞理由には、支部運営への貢献、多くの学生を指導することで学術成果を発信したことがあげられ

ています。これらの理由は、学会人として、また大学人としてこの上ない榮譽です。重ねて厚く御礼申し上げます。

あいにく、2019年に大病を患い不自由な身となり、環境水を採取しての教育・研究は困難になりました。今後は、制約がある中でも可能なこととして、水環境中の有害化学物質の探索と構造推定の技術開発と普及を目指して参る所存です。

少しずつではありますが、体の自由を取り戻しつつあります。諸事情が許せば、支部研究発表会で発表させていただければと存じます。皆様とお目にかかれることを楽しみに、水環境の教育・研究に精進して参る所存です。引き続きよろしく願いいたします。この度は、大変ありがとうございました。

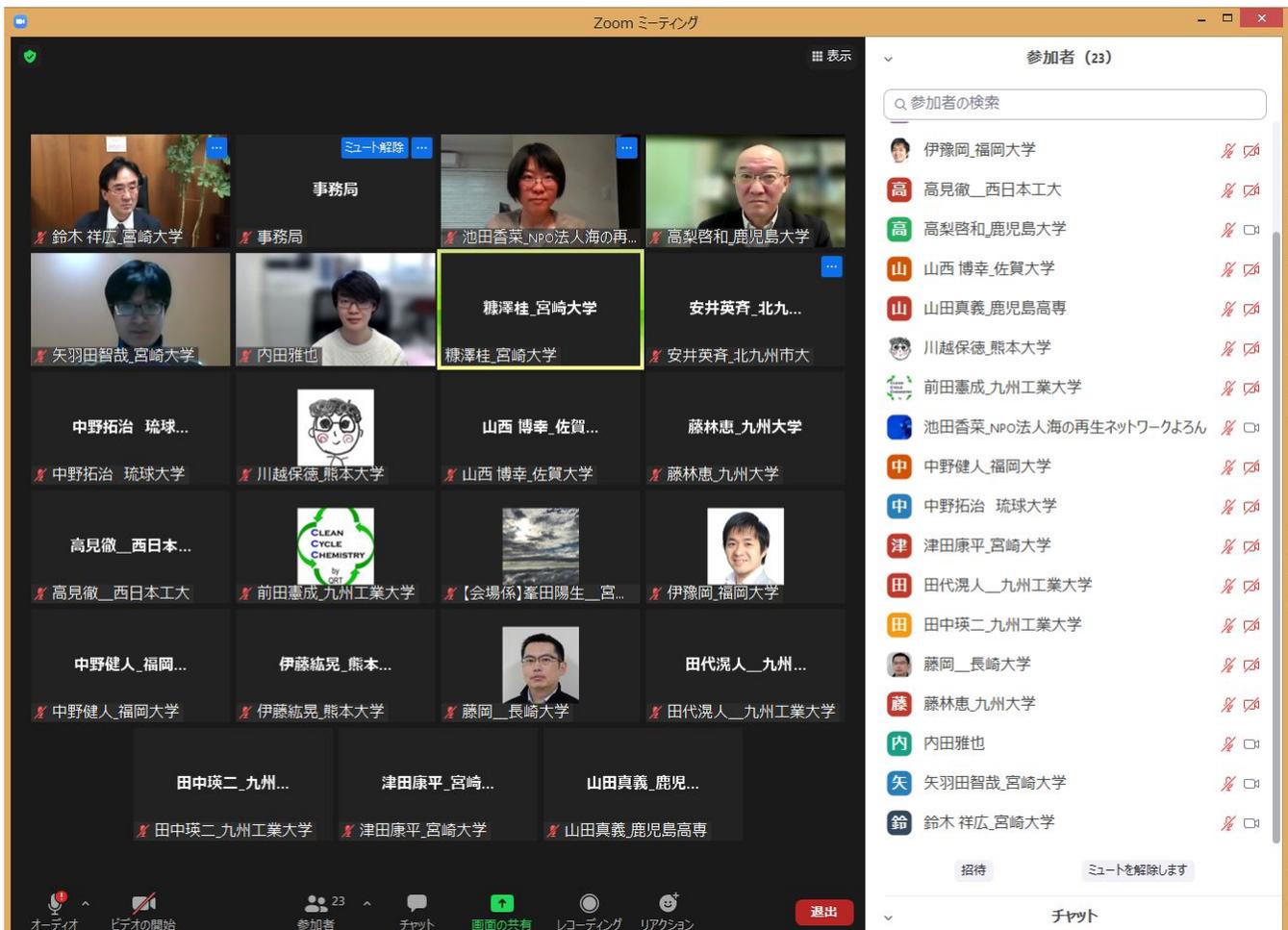


写真 総会での授賞式のスクリーンショット

8. 2021 年度水環境健全指標調査報告

西日本工業大学 高見 徹

「水環境健全性指標」は、川の自然すがた、生き物、水のきれいさ、快適さ、普段の生活での利用などの視点から川を取り巻く環境を調べる際に活用できる指標であり、学校や住民・NPO などにおいて地域に根差した環境学習を行う際のツールとして、日本水環境学会が平成 16 年度の環境省請負事業に参画し開発を進めたものです。水環境健全性指標 2009 年版は「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」として、環境省のホームページに公開されています（www.env.go.jp/water/wsi/index.html）。

2021（令和 3 年）度は 3 つの団体によって 4 河川において実施されました。1 つ目は 7 月 18 日（日）に大分市津留地区ふるさとづくり運動推進協議会（代表：河野充宏氏）によって大分川の舞鶴橋下流地点において実施されました。調査者は 12 名で、同日に開催した「川の教室（カヌー教室）」に参加した地域の小学生でした（写真上段）。2 つ目は 10 月 23 日（土）に福岡大学工学部の伊豫岡宏樹先生が開講した福岡未来創造プログラム「福岡学」（第 2 回自然とまちづくり）に参加した大学生 11 名によって樋井川的一本松川合流地点（通称、樋井川ビーチ）において実施されました（写真中段）。3 つ目は 10 月 23 日（土）と、11 月 19 日（金）、12 月 3 日（金）、12 月 17 日（金）に西日本工業大学工学部の学生 3 名によって紫川と遠賀川において実施されました。紫川では上流から中流までの 4 地点、遠賀川では上流から中流までの 5 地点を調査しました（写真下段）。

当初の計画では、調査結果に関する検討会を開き、各地域・調査河川の特徴や健全さのための課題を議論する予定でしたが、実施河川が少なく、検討会の開催には至りませんでした。今後は、実施団体や調査河川・地点を増やして調査を継続し、議論できる程度の結果を蓄積することで、検討会の開催を目指します。



写真 大分川での調査



写真 樋井川での調査（伊豫岡先生ご提供）



写真 紫川での調査

9. 2021 年度支部収支報告並びに 2022 年度支部収支 (案)

収支計画書 (九州沖縄支部)

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで)

1 一般会計

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	R3 予算額 (a)	R3 決算額 (b)	差額 (b-a)	備 考
講演会参加費収入等	0	0	0	
本部より活動費収入	250,000	250,000	0	支部活動費
雑収益	0	19	19	受取利息
当期収入合計	250,000	250,019	19	
前期繰越金	3,596,488	3,596,488	0	
収入合計	3,846,488	3,846,507	19	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	R3 予算額 (a)	R3 決算額 (b)	差額 (b-a)	備 考
(1) 役員会開催費	120,000	0	-120,000	
(2) 支部総会, 研究発表会開催費	450,000	60,535	-389,465	研究発表会アルバイト代 (振込手数料込)
(3) 支部研究発表会優秀講演者表彰事業	200,000	66,444	-133,556	支部研究発表会優秀発表賞の賞状代等 (振込手数料込)
(4) 支部独自活動諸経費	530,000	0	-530,000	
(5) 水環境総合指標研究補助事業	30,000	4,774	-25,226	みずしるべ調査用パケット (振込手数料込)
(6) 広報関係費	70,000	66,176	-3,824	支部 HP 関係費等 (振込手数料込)
(7) 活動予備費	2,546,488	0	-2,546,488	
当期支出合計	3,846,488	197,929	-3,648,559	

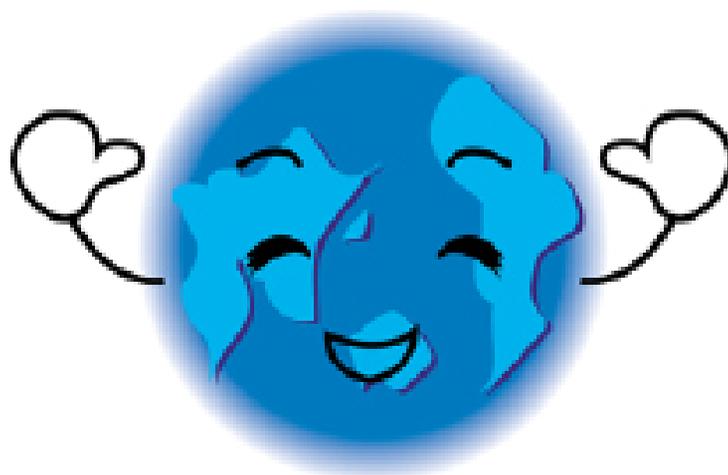
2022 年度日本水環境学会九州沖縄支部収支（案）

(1) 収入の部

科 目	金額 (円)	備 考
事業参加費収入等	100,000	九州沖縄支部研究発表会等
本部より活動費収入	250,000	支部活動費
当期収入合計	350,000	
前期繰越金	3,648,578	2022.3.31 現在
収入合計	3,998,578	

(2) 支出の部

科 目	金額 (円)	備 考
(1) 役員会開催費	120,000	役員旅費等
(2) 支部総会, 研究発表会開催費	450,000	支部研究発表会要旨集代, 案内はがき等
(3) 支部研究発表会優秀講演者表彰事業	200,000	「水環境貢献賞」「学術奨励賞」「学術賞」 表彰事業表彰者旅費等
(4) 支部独自活動諸経費	530,000	現地見学会, 情報交換会, 若手研究実務者育成基金
(5) 水環境総合指標研究補助事業	30,000	水環境健全性評価調査 (2 回程度・行事未定)
(6) 広報関係費	70,000	支部 HP 関係費等
(7) 活動予備費	2,598,578	
当期支出合計	3,998,578	



10. 2022 年度日本水環境学会九州沖縄支部役員

役 職	氏 名	所 属	職 名	担 当
支部長	鈴木 祥広	宮崎大学工学部	教授	研究助成(主)
副支部長	久場 隆広	九州大学大学院工学研究院	教授	会計
理事	石橋 融子	福岡県保健環境研究所	課長	
	伊藤 紘晃	熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター	助教	
	伊豫岡 宏樹	福岡大学工学部	助教	
	内田 雅也	国立高専機構有明高専創造工学科	准教授	
	鬼倉 徳雄	九州大学大学院農学研究院	教授	
	川越 保徳	熊本大学大学院先端科学研究部	教授	研究助成(副)
	高見 徹	西日本工業大学工学部	教授	
	寺嶋 光春	北九州市立大学国際環境工学部	准教授	
	中野 拓治	琉球大学農学部	客員教授	
	東野 誠	国立高専機構大分高専都市・環境工学科	准教授	
	藤岡 貴浩	長崎大学大学院工学研究科	准教授	
	藤沼 紀敏	いであ株式会社沖縄支社	部長	
	前田 憲成	九州工業大学大学院生命体工学研究科	教授	HP
	安井 英斉	北九州市立大学国際環境工学部	教授	支部表彰
	山田 真義	国立高専機構鹿児島高専都市環境デザイン工学科	教授	ニューズレター
	山西 博幸	佐賀大学理工学部	教授	研究助成(副)
幹事	糠澤 桂	宮崎大学工学部	准教授	幹事長
	藤林 恵	九州大学大学院工学研究院	助教	会計
監事	栴田 聖孝	東海大学	名誉教授	
	門上 希和夫	北九州市立大学環境技術研究所	名誉教授	
顧問	宮城 俊彦	沖縄県衛生環境研究所	元所長	2016 就任
	山崎 惟義	福岡大学	名誉教授	2016 就任
	西留 清	国立高専機構鹿児島高専	名誉教授	2016 就任



(公社) 日本水環境学会九州沖縄支部ニュースレター No.31

2022年6月30日発行

編集者

国立高専機構鹿児島高専(担当:山田)

〒899-5193 鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

TEL: 0995(42)9123 FAX: 0995(42)9123